

第2回 米沢産業高校（仮称）教育基本計画策定委員会 記録（概要）

- 1 日時 令和2年9月10日（木）10：30～12：00
- 2 会場 県庁1001会議室
- 3 参加者 委員長（座長）、委員9名
- 4 内容

- 1 県教育委員会あいさつ
- 2 委員の紹介
- 3 報告
 - (1) 第1回教育基本計画策定委員会の概要
 - (2) 総合選択制について
 - (3) 三修制について
 - (4) その他
- 4 協議
 - (1) 教育基本計画の構成(案)
 - (2) 基本理念の検討方針(案)
 - (3) 基本理念の骨格(案)
 - (4) 育てる生徒像(案)
 - (5) 定時制班の提案事項
 - ① 総合学科の目標(案)
 - ② 教育課程編成の基本方針(案)
 - (6) その他
- 5 意見交換

5 発言要旨

3 報告 事務局長より説明

(1) 第1回教育基本計画策定委員会の概要

質問等なし。

(2) 総合選択制について

(委員)

総合選択制は、中学生にとって非常に興味のある内容であり、新高校の一番PRできる内容となるので、しっかりと中学生に伝わるようにして欲しい。総合選択制を導入している高校の例を見ると、予想外に選択科目が少ないと感じた。教員数の問題もあり、選択科目を増やすことにも制限があるとは思いますが、現時点でどの程度の選択科目を設けるつもりか。

(事務局)

教員数により、設置できる選択科目が限られる。また、資料に掲載した高校よりも多くの選択科目を設置している学校もある。米沢産業高校（仮称）は専門学科高校であるため、工業と商業で欠かせない科目がある。その中で、大学等に進学するための普通科目や、視野を広げるための他の学科の科目を設置することになる。現在、作業部会において、生徒の実態を踏まえながら、検討を進めている段階である。

(部会長)

総合選択制の在り方について、現在、作業部会、班会で検討している。中学生は高校で深く学びたい内容を考えた上で、米沢工業高校や、米沢商業高校に入学してくる。例えば、工業を学ぶと決めて入学した生徒の多くは、商業を深く学ぼうとはなかなか思わないのではないかと。総合選択制は、進路やキャリアの幅が広がるという観点もあるが、他学科の科目は、基礎・基本的な科目を中心に設置するのが現実的であると考えている。

(3) 三修制について

(委員)

庄内総合高校の定時制において、7、8時間目は、毎日開設されるのか。

(事務局)

週3日開設する予定である。生徒の色々なスタイルに合わせた学びを保障したいと考えており、3年での卒業だけでなく、じっくり時間をかけて4年間で卒業するという選択も可能としている。

(委員)

6時間の授業を受けて3年間で卒業するか、4時間のみの授業で4年間かけて卒業するかを生徒が選べる教育課程にあわせ、先生方の体制も整えていただけないかという認識でよいか。

(事務局)

その通りである。

(委員)

開始時間を遅くするというのが、最近の流れなのかと感じているが、庄内総合高校では、どのようなライフスタイルの生徒を想定しているのか。授業前の時間や授業後の時間をどのように活用することを想定しているのか。

(事務局)

夜間の定時制は、日中働いて、夜に学習をするスタイルだったが、現在は、働いている生徒でも、正社員ではなく、アルバイトの生徒がほとんどである。半日で学校が終わるため、他校の例だが、残りの時間を趣味の時間や、プロを目指すためにスキル向上など、夢を追うための時間に使っている生徒がいたり、また、大集団になじめない生徒や、何らかの課題を抱えている生徒が入学している現状もある。午前中のみ授業を行う酒田西高校定時制では、全日制の生徒と登校時間が重ならないよう、開始時間を若干遅らせる等の配慮をしている。

庄内総合高校は、酒田西高校と全く同じ活動時間帯では特色が出にくくなることなども考えて、3～6時間を授業時間帯とし、朝のSHR後に20分程度の学習時間を設定し、7、8時間目に選択の授業を設ける予定としている。

酒田西高校は平成 30 年に昼間に移行したところ、志願者が倍になった経緯があり、昼間定時制の潜在的なニーズは大きい。米沢産業高校（仮称）でも、これまで以上に多様な生徒が入学してくることを想定している。

4 協議 部会長より提案

(1) 教育基本計画の構成（案）

質問意見等なし。原案の通り承認。

(2) 基本理念の検討方針（案）

質問意見等なし。原案の通り承認。

(3) 基本理念の骨格（案）

（委員）

教育理念の 3 つの骨格は、よく考えられていると感じる。米沢の工業団地で働いている米沢工業高校や米沢商業高校の卒業生は、非常にしっかりと仕事に取り組み、人として信頼できるという声をよく聞く。生き方、在り方が一番大切であり、「人間性」を一番始めに挙げている点がよい。学びの在り方については、次世代の産業を支えるという観点で、AI やデジタル技術の進歩が進む中、デジタル社会への対応を、工業、商業いずれにおいても推進しなければならない。「実践的・協働的な学び」については、地元の大学や企業と連携し、学びを深めていくことが大事だと思っている。最後の「持続可能な社会の創造」について、人口減少社会において、持続可能な、極端に言えば米沢の社会の担い手をどのように育てていくかが一番の課題であり、置賜、県内の市町村が存続していけるかという瀬戸際にある。その中で、新高校で学んだことを生かして地元就職する生徒だけでなく、いったん県外に出ても戻ってきて地元で頑張る生徒や、県外や国外へ出て、自分の特性を生かして頑張る生徒もいるが、生まれ育った地域や高校を誇りに思い、地元に関わりを持ち続ける子どもを育てたいと思っている。

（委員）

私もよく練られている教育理念だと思う。一番大切なのは、専門学科高校の魅力が込められているということである。中学生が見て、入学して学びたいと思える理念が読み取れることが大切だ。普通科高校と大きく異なる「実践的・協働的な学び」については、教育課程などに是非反映させてほしい。

（委員）

「豊かな人間性」「実践的・協働的な学び」「持続可能な社会の創造」はよく考えられたキーワードである。特に、今まで通りの右肩上がりではない人口減少社会の中で、「持続可能な社会」をどう構築していくかは行政にとって非常に大事な課題であり、その課題を考えられる子ども達をどう育成するかは、重要な視点と捉えている。

（委員）

義務教育に携わる者として、「実践的・協働的な学び」は学びに関わる内容であるため、一番始めに掲げられるべきものと考えていた。「学びを支える人間性」という視点で「豊かな人間性」、「学びの在り方」という視点で「実践的・協働的な学び」、「学びを生かす方向」という視点で「持続可能な社会の創造」とすべて学びにつな

がっており、その中でも特に「豊かな人間性」という、どのような人間を育てるのかを一番重要なものとして考えていることが分かり、この順番になっていることが分かった。

(座 長)

委員の皆様は賛同いただけただけなので、原案の通りとする。今後の作業部会で、この3点をもとに検討を進め、今後、具体的な形として基本理念の提案をお願いする。

(4) 育てる生徒像 (案)

(委 員)

全日制と定時制の育てる生徒像を比べると、大きな違いはないように見える。例えば、全日制にのみ「高い倫理観」という言葉が入っていると、逆に定時制ではいらぬのかといった意見が出てくるのではないかと。育てる生徒像を全日制と定時制で異なるものにする必要があるのか。

(部会長)

定時制の育てる生徒像は、現在、定時制で学ぶ生徒を目の前にしている教員の言葉でもある。基本理念の骨格3つは全日制と共有するが、様々な課題を持ちながら定時制で学ぶ、学びを諦めない、学び続けたい生徒の意志を尊重して、この表現になったと理解している。

(委 員)

専門性や価値創造については、比較的教育課程内で評価が可能であると思われるが、「人間性」に該当する教育課程をつくり、達成度を何らかの形で確認することが制度上必要だと思う。人間性の部分をどのように教育課程で担保して、評価するのか。

(事務局)

もったいな御意見であり、最近の中央教育審議会でも、基本理念に関わる内容を教育課程に落とし込む大事さが議論されている。今年度は教育理念など学校のコンセプトを決め、具体的な学習内容などについては、来年度以降の開校整備委員会で検討することとしている。来年度の検討に向けて、様々な御意見を頂きたい。

(委 員)

育てる生徒像について、全日制と定時制が別になることに異論はない。③の部分が同じ表現となっている理由を教えて欲しい。

(事務局)

学びを社会の中でどう生かしていくのかという視点については、全日制も定時制も、育てる生徒像は同一と考えた。度合いなどは違うかもしれないが、人として社会に関わって、最終的に目指すものは同一であると考えている。

(委 員)

定時制には多様な生徒を預かっているという認識がある。そういった生徒もいるのだということを念頭に置いて、今後、詳細について議論していただければと思う。

(部会長)

定時制の子ども達は、学校生活において自分の周りの人達に気づき、支えられていることを学び、中学校時代に休みがちであった生徒もほとんど休まず出席し、教室には入れなかった生徒も廊下までは来られるようになるなど変化が起こる。昼間定時制

に移行しても、同じ課題をもっている仲間が周囲にいることにより、子ども達自身が本来もつ、諦めずに自身の将来をつくっていく力を発揮できると感じている。今後もこのような前向きな生徒を育てるため、我々教員が協力し合い、課された役割を果たしていきたいと考えている。

(事務局)

新しい価値の創造は、様々な捉え方があると考えている。社会を変革するようなものもあれば、社会人になり、自分の仕事を遂行するにあたって、言われたままを行うのではなく、改善案を提案することなども新しい価値の創造になる。

(委員)

子ども達の幅広い実態に応じて、考えられた生徒像であると感じられる。生徒が自立した生き方ができるように、支えたいという先生方の思いが特に定時制から感じられる。生徒が学びを通じて個性を伸ばし、将来、社会の一員として活躍する姿がイメージでき、うれしく思っている。

(座長)

いただいた御意見を踏まえ、今後さらに作業部会で検討を加え、目指す学校像、教育目標を含めて提案をお願いします。

(5) 定時制班の提案事項

① 総合学科の目標(案)

質問意見等なし。原案の通り承認。

② 教育課程編成の基本方針(案)

(委員)

地域と協働した教育活動について、現時点で具体的に考えていることはあるか。米沢市としても、できる限り協力したいと考えている。

(事務局)

ありがたい言葉をいただき、感謝する。具体的には来年度以降に具体的なプログラムを構築していくが、夜間から昼間に移行した理由の1つとして、企業のインターンシップ、大学等の外部と連携がしやすいことがある。不登校を経験するなど課題を抱えている生徒を自立させたい思いがあり、昼間であれば社会と関わる活動や体験活動の幅が広がり、成長できる選択肢が増えることになる。今後、学校のコンセプトを見極めながら、具体的な検討が始まる来年度以降に備え、情報交換をさせていただきたい。

(部会長)

現在は、実務代替で単位の修得を認めるなどしているが、今後、外部との連携を更に進める方向で検討したい。

(6) その他

(委員)

高大連携は、大学としては絶対に達成しなければいけないミッションであり、文部科学省からも指示を受けている。米沢工業高校の全日制とは、連携を行っているが、今回、新高校ができるということで、新たに専攻科との連携ができないかと考えている。山形大学工学部には、米沢工業高校から、高校卒業後に入学する生徒が増えてお

り、今年度は推薦やAO入試を利用して3名入学しているが、このつながりをより太くし、地元の高校からより多くの生徒に入学してもらえる仕組みをつくっていききたい。一方、これまでは工業高校の専攻科からの大学3年次への編入は難しかったが、昨年からは制度が変更となり、工業高校からの入学者と、専攻科を出た生徒が3年次編入をする体制が構築されつつある。3年次編入の学生は、大学院まで進学する生徒が多く、学びに対して意欲的である。その学生が将来、地元の地域で働くようになるという、山形モデル、米沢モデルが構築できたらと思う。その実現には、高校生が日常的に大学の研究室において、研究したり、講義に参加したりすることが必要であると考えている。米沢興譲館高校では、放課後、講義に参加することが可能であり、山形大学に進学した場合には、高校時代に大学で修得した単位が認定される仕組みが既にある。新高校から山形大学に進学し、将来は山形県の産業界を支える、そんな流れをつくりたいと考えている。

(事務局)

専攻科については、ここで議論する内容ではないが、本県の工業教育全体に関する内容として、担当にもお伝えしたい。

5 意見交換

(委員)

米沢産業高校（仮称）の開校に伴い、高校だけでなく、大学を含めた新たな取り組みのモデルをつくっていききたい。地域の活性化がなければ、日本全体の競争力が低下してしまう。このため、大学と高校が連携し、地域を活性化するモデルを米沢、山形から発信する機会にしたい。是非、大学と連携し、色々な仕組みを利用してもらえればと思う。

(委員)

小学校向けプログラミング教材を、専攻科の学生から120セット頂いた。加えて、専攻科の学生に教員向け講習会の講師も務めて頂いた。大変ありがたいことだと感じている。専攻科の学生は、自分の足下から課題を見だし、その課題を解決するにはどうすればいいかという、課題解決型学習に取り組んでいる。このような大変素晴らしい取り組みを、今後も続けていただきたい。

(委員)

オフィス・アルカディア、八幡原中核工業団地に企業立地が順調に進んでいるが、人材不足の課題解決のためにも、米沢産業高校（仮称）に対する期待は大変大きい。企業が求める生徒を育てていただければ非常にありがたい。米沢商業高校の施設を定時制が利用することになれば、余剰施設が出てくることとなり、その活用について、米沢市としても協力したいと考えている。

(委員)

現在、置賜地区の中学生が落ち着いている理由の1つは、高校生の姿がしっかりしていることにあると考えている。新しい高校が誕生するにあたって、これまで以上に中学生の目標となるような生徒を育ててもらいたい。

(部会長)

本日は様々な御意見や励ましの言葉を頂いて、本当に元気が出る。教職員にも本日

の期待や要望をしっかりと伝えたい。統合する両校は歴史があり、職員にも卒業生が多く、統合はショックだった職員もいたようだ。だが、現在は工業だけ商業だけを学ぶという時代ではない。この機会を生かして、中学生が入学したいという高校、日本中から注目される高校、他県から視察が殺到する高校、米沢がますます元気になれるような、米沢の子ども達が自分のふるさとを育てていけるような新しい高校をつくりたい。

(副部長)

本日は様々な御意見をいただき、大変感謝する。何度か議論を進めてきたが、一つ言えるのは、米沢工業高校、米沢商業高校の職員が考えていることは全く同じで、いい高校をつくりたいということだ。今後とも話を進めながら、中学生から選んでもらえ、置賜地区を元気にできるような学校をつくっていきたいと考えている。今後とも御指導をお願いします。

(委員長)

貴重な御意見をいただいた。本日いただいた御意見を今後の作業部会でしっかりと議論してほしい。

米沢産業高校（仮称）再編整備に係る学校視察報告

訪問先	山形県立村山産業高等学校	日 時	令和2年9月14日（月） 9：30～11：50
訪問者	米沢工業高校 教頭 土屋 仁 教諭 竹田晴誉 教諭 佐々木崇 米沢商業高校 教諭 東 博一 教諭 勝見 信 高校教育課 指導主事 油井敏和 高校改革主査 丹野 陽 高校改革主査 佐藤共生	応接者	校長 青柳晴雄 教頭 折原辰徳 教頭 伊藤久敏 教諭（教務部長） 笹原智也 教諭（機械科長） 伊藤 亨 教諭（電子情報科長） 庄司洋一 教諭（流通ビジネス科長） 伊藤尚人
1 総合選択制について	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数は2年時1科目2単位、3年時2科目4単位の計6単位。 ・①専門的な知識を深めるための専門科目（自学科や他学科）と②進路選択に合わせた共通科目を選択する場合がある。 ・自学科の生徒のみが選択できる科目と、学科オープンで選択できる科目がある。 ・総合選択の授業は自学科の生徒と他学科の生徒は、同じ科目でも進度や理解度に差があるため、別々に授業を行っている。 ・自学科の科目を選択する生徒、及び共通教科の科目を選択する生徒（約3割）が多い。特に工業科の生徒は工業の科目を選択することが多く、その満足度も高い。 		
2 学校設定科目「キャリア基礎」について	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時1単位で実施。担当は学科長。科長が集まって打合せを行っている。 ・キャリア基礎ノートというテキストを準備し、総合選択授業の内容の理解、将来の自分像や地域産業、聞く力や話す力など内容で指導している。他学科に自学科を知ってもらう機会になっている。 ・1学期は「自分を見つめる」、2学期は「各専門（農業、工業、商業）を知る」、3学期は「将来に向けて」の内容で構成している。 		
3 施設設備に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・旧村山農業高校の敷地にあるため、農場はリンゴ畑や畜舎など充実している。 ・工業科においては、新しい工作機械が充実している。また、生徒の製作物などを展示するスペースがあった。 ・商業科においては、総合実践室において、簡易可動式の机椅子、書き込めるパーテーション、上下可動式のホワイトボード、プロジェクタの設置等、機能的な環境が整っていた。 		
4 専門学科の併置を活かした教育活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社六歌仙の協力のもと、企画・酒米生産・命名・デザインを生徒が行った。（農業科：酒米、商業科：ラベルデザイン、工業科：ノベルティ（おちょこ&プレート）、商品名：全校生から公募） ・商業科の商標権と工業科の特許権について、連携した学習を行っ 		

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位数の違い等もあり、課題研究において、他学科との協働は難しい。
<p>5 企業・高等教育機関・地域との連携に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社六歌仙との商品開発、製造、販売。 ・日本一の芋煮会用の芋が時期的に県外産を使用せざるを得ない実態から、里芋の促成栽培に取り組み成功させるなど、地域課題に着目しPR効果の高い取り組みをしている。 ・地元商店の外壁の塗装。 ・大学、企業の方による講演会等。

米沢産業高校（仮称）再編整備に係る学校視察報告

訪問先	山形県立酒田光陵高等学校	日 時	令和2年9月14日（月） 14：40～16：10
訪問者	米沢工業高校 教頭 土屋 仁 教諭 竹田晴誉 教諭 佐々木崇 米沢商業高校 教諭 東 博一 教諭 勝見 信 高校教育課 指導主事 油井敏和 高校改革主査 丹野 陽 高校改革主査 佐藤共生	応接者	校長 鈴木和仁 教頭 藤田雅彦 教諭（教務部長） 星 光里 教諭（情報科長） 櫻井敬士
1 総合選択制について	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数は2年次3科目6単位、3年次3科目8単位の計14単位。 ・総合選択科目は計137科目あり、そのうち学校設定科目は13科目（情報、国語、数学、保健体育、外国語、芸術）。 ・各専門学科の生徒全員が履修する専門科目は25単位（必要最低単位数）とし、それ以上の専門科目の履修は総合選択科目から選択する。 ・1年次に「総合選択資料」という冊子を使用し説明を行い、進路等に応じた選択のモデルなどを示して指導している。 ・工業科の生徒は、ほとんど工業の科目を選択している。また、普通科から工業科目を選択する生徒がほとんどいない。 ・商業科の生徒は、進路希望の関係で共通教科を選択する生徒が見られる。 ・共通教科の授業は全学科一緒に授業し、専門教科の授業については、自学科の生徒と他学科の生徒で授業を分けている。 ・多様な進路選択に役立ち、生徒の興味関心を生かせる。 ・英語の選択科目が、単位数の多い普通科と少ない専門学科と一緒に授業しており差が激しい。 ・総合選択制はメリットもデメリットもそれぞれあるが、選択肢をつくっておくことが大切だと考えている。 		
2 学校設定科目「公益と産業社会」について	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次1単位で実施。担当は担任であり、負担が大きい。 ・進路、自己理解、地域・職業理解、協働学習などの成果があり、2年次以降の課題研究等へつながった。 ・令和4年度からは「地域経済や地域産業、金融経済」に特化した内容とし、商業科と地歴公民科で担当する方向で検討している。 		
3 施設設備に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実践室（普通教室の4倍程度の広さ）、総合実践準備室（商業教材室）、マーケティング室、簿記室1、簿記室2、情報実習室など。 ・校内は生徒用及び教員用のWi-Fiが整備されている。e-教務の活 		

	用や Google classroom を利用した取り組みなど、県内では先駆的な取り組みをしている。
4 工業科、商業科、情報科、普通科の併置を活かした教育活動に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・開校8年目であり、これまではそれぞれの学科が自分たちの学科のことで精一杯であった。 ・学科の独自性は強い。 ・地域の課題解決に向けた取り組みなど商業科を中心に展開している。開校時の忙しさも落ち着き、これからは学科間の連携を図っていきたい。
5 企業・高等教育機関・地域との連携に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・情報科において、技能五輪（産技短）、5年一貫教育（産技短）、課題研究の指導（他高校、大学、企業等）、講座やプロジェクト演習（大学、企業等）などがある。
6 一般社団法人「SKIES(スカイズ)」について	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人「SKIES(スカイズ)」を設立（H30.2.9）し、商業教育の実践の場として運用している。 ・具体的な取り組みは、地域行事への参加と商業科実践活動（校内でのサービス・販売事業ほか）。 ・他学科の生徒の活動においても、「SKIES」の事業と関りを持たせ、事故等の保険に対応している。